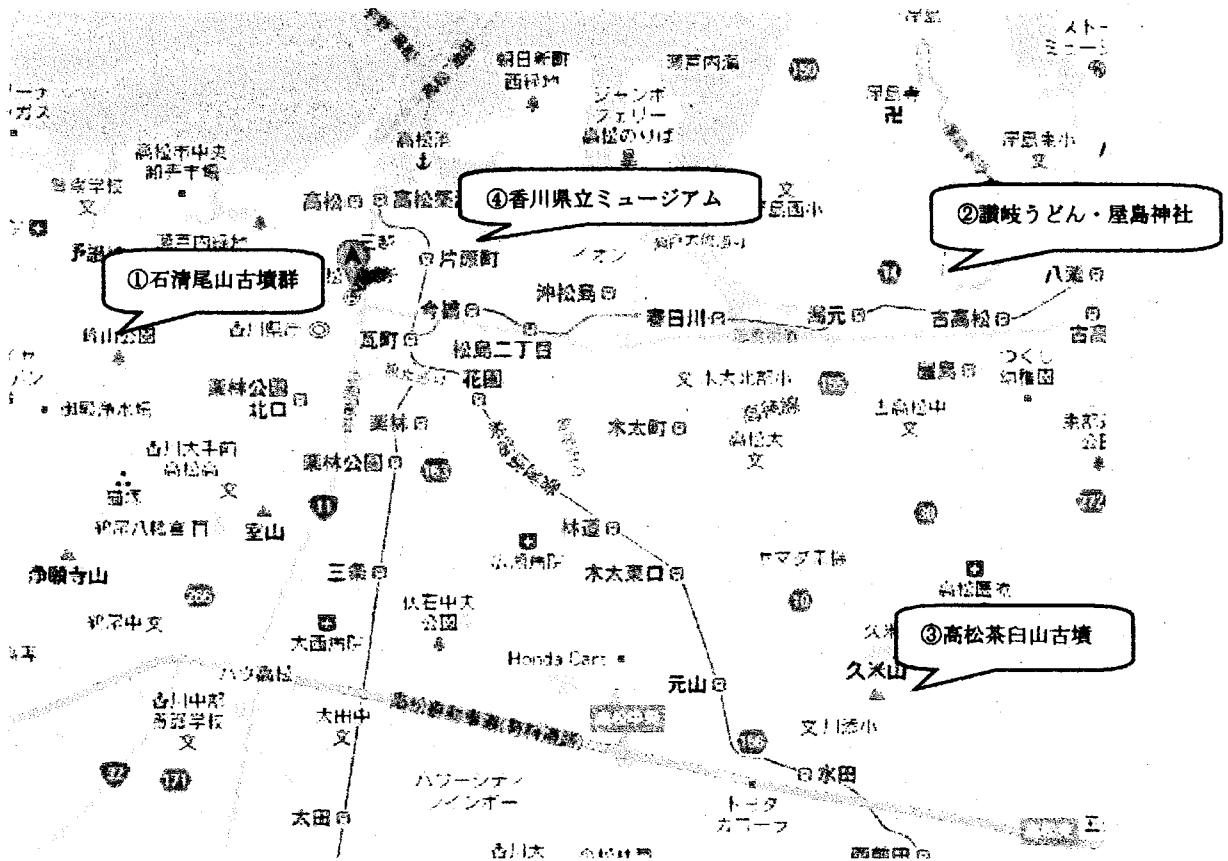


備陽史探訪の会 バス例会

古墳と空海と讃岐うどんの旅



今回のおもな探訪地

- ① 石清尾山古墳群：古墳時代前期（4世紀）の積石塚の古墳群
- ② 讃岐うどん（屋島神社）：「わら家」にて、釜あげうどん
- ③ 高松茶臼山古墳：古墳時代前期（4世紀）の前方後円墳
- ④ 香川県立ミュージアム：「空海」の常設展示

平成 23 年 9 月 25 日（日）
備陽史探訪の会 古墳部会

 備陽史探訪の会

○ 行程（天候・交通事情などによって変わることがあります）

8:00 福山駅北口出発

8:30 山陽自動車道福山東 IC

10:30 峰山公園到着～石清尾山古墳群探訪

・積石塚(猫塚・姫塚・石船塚・鏡塚・北大塚など)見学！

12:30 峰山公園出発

13:00 屋島神社到着

・高松松平藩建立の東照宮

13:30 昼食(讃岐うどん:わら家)

14:10 わら家出発

14:30 高松茶臼山古墳到着

・前期の前方後円墳。大型の竪穴式石室が見学可能！

15:00 高松茶臼山古墳出発

15:30 香川県立ミュージアム到着

・企画展示の「弘法大師空海」にて学芸員の説明あり！

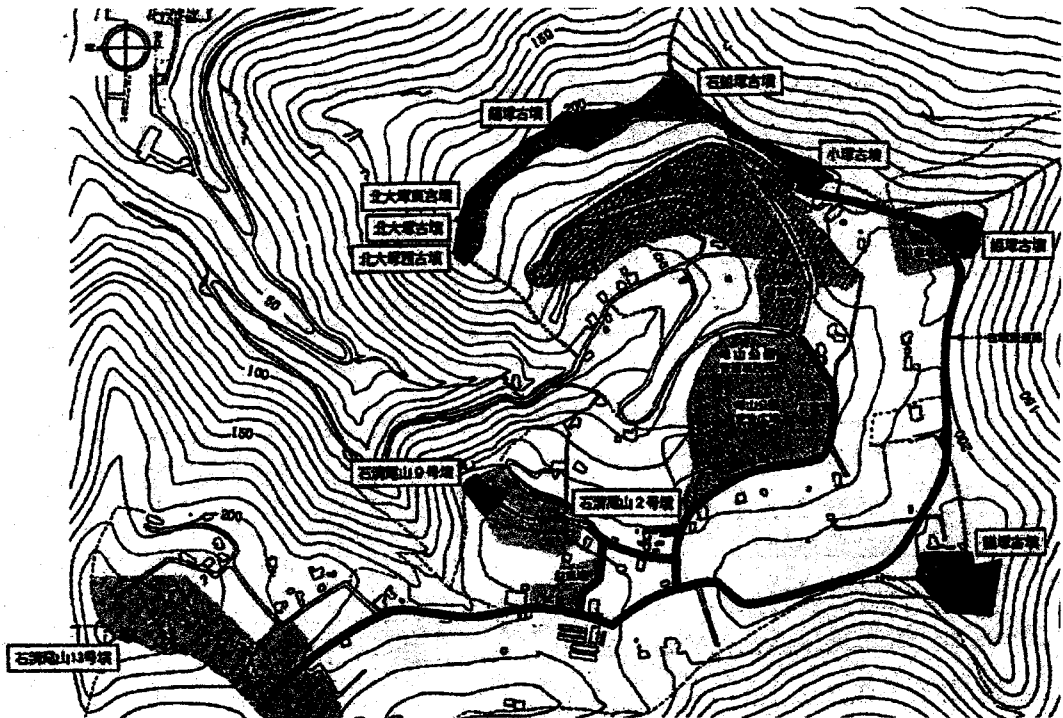
16:30 香川県立ミュージアム出発

18:00 山陽自動車道福山東 IC

18:30 福山駅北口到着予定

メモ

●石清尾山（いわせおやま）古墳群について



石清尾山古墳群には、4世紀から7世紀にかけてつくられた200基余りの古墳があります。これらは、墳丘を土で築いた盛土墳と、石で築いた積石塚とに分けられます。中でも、積石塚は4～5世紀にかけてつくられたもので全国的に珍しく、形も特異な双方中円墳をはじめ前方後円墳などと多様で、貴重な文化財として有名です。

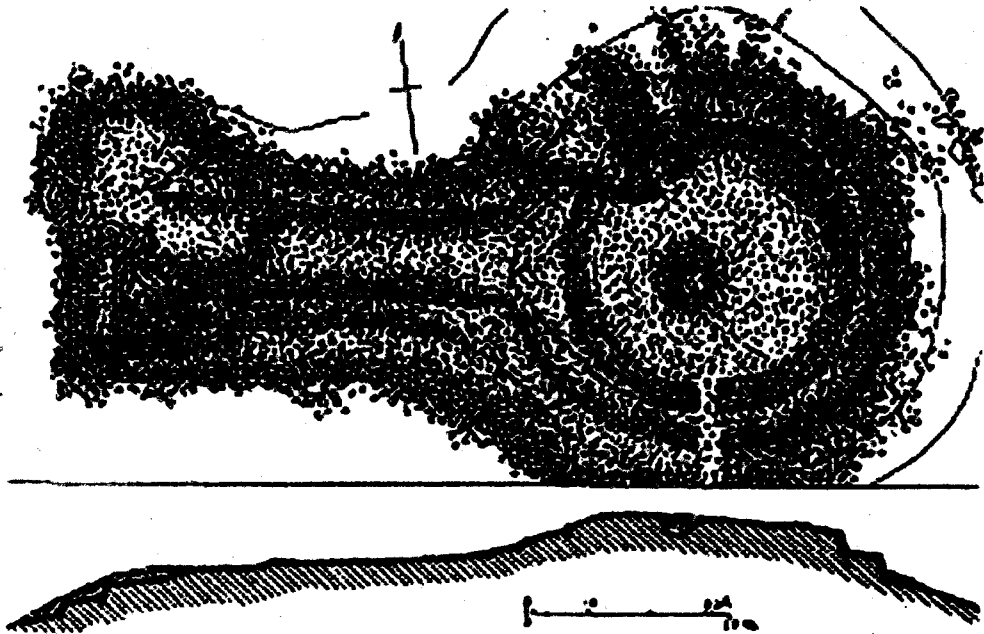
積石塚古墳の出現理由には、石清尾山では石を得られやすかったためとする自生説と、積石塚が所在する朝鮮半島から伝来したとする渡來說があります。両説とも一長一短があり定まっていませんが、背景には豪族がいたのに間違いなく、当時の石清尾山周辺の繁栄がうかがい知れます。

5世紀の中頃になると、積石塚は縮小され形も円墳となって、明らかに石清尾山の大豪族の衰退がみられます。おそらく、個性的であったがために幾内の中央の勢力によって押さえ込まれたのでしょう。5世紀の終わりごろになると、もはや積石塚古墳はつくられなくなります。その後、石清尾山に古墳がつくられるようになるのは約100年後のことです。

石清尾山古墳群のなかでも山頂一帯に所在する主要な11基の古墳は、昭和60年7月16日に国の史跡に指定されました。

●姫塚古墳

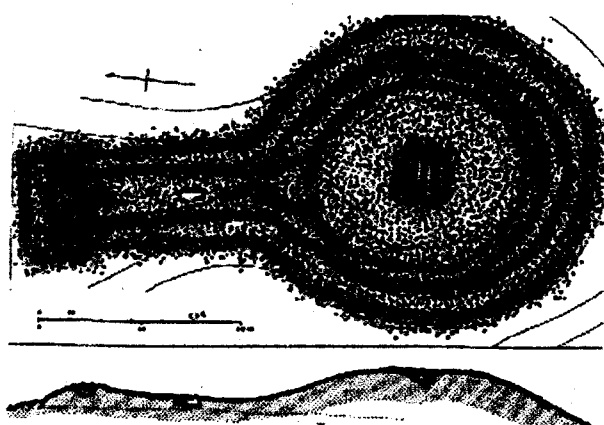
全長 43m の前方後円墳。前方部の先端に四角の壇があるのが特徴で、積石が石垣状になっている箇所が見受けられます。京都大学の調査報告には石室を発見し、内部から鏡 1、刀の破片 1、土器 1 個が出土したとありますが、実態は不明です。伝わっている出土遺物には壺や円筒埴輪の破片があります。石清尾山古墳群では円筒埴輪が確認できる古墳の最初になります。



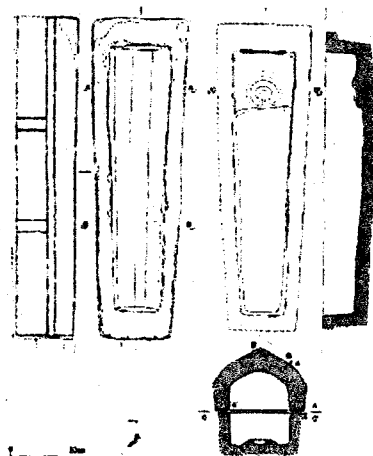
姫塚古墳墳丘測量図

●石船塚古墳

全長 57m の柄鏡の形をした前方後円墳。後円部の頂上には鷲の山産の刳拔式石棺があり、石枕が見られます。遺物は壺や埴輪が採集されています。壺の形からは石清尾山古墳群の前方後円墳の中では一番新しいと考えられ、この古墳をもって積石塚の築造が停止したと考えられています。なお、1960 年代に小竪穴式石室が発見され、中から変形神獣鏡が見つかっています。



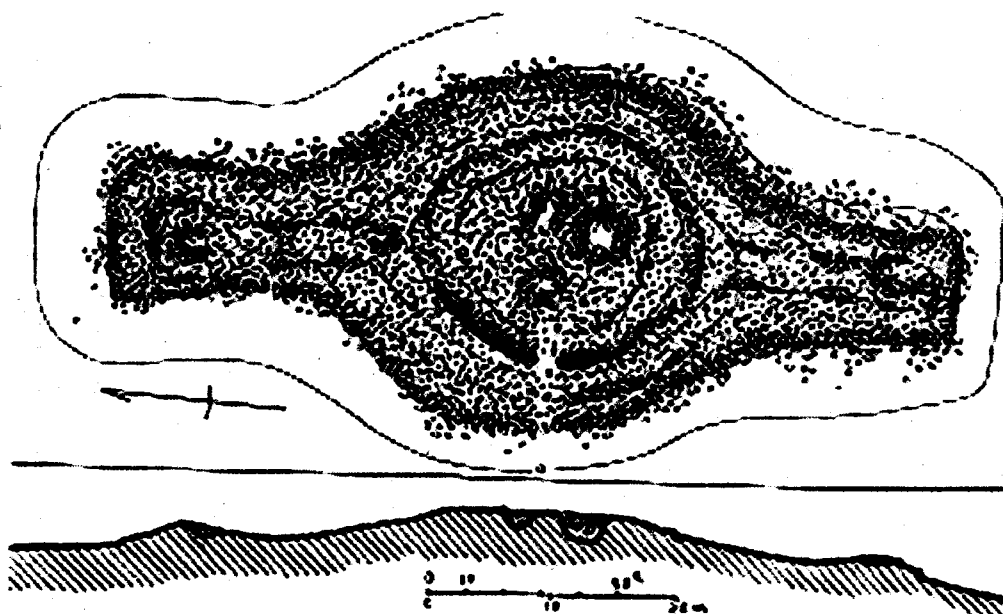
石船塚古墳墳丘測量図



●鏡塚古墳

双方中円墳という珍しい形です。両方の方墳部分は同じ大きさに均整がとれています。全長は70mで大型です。方墳部分にそれぞれ1個、中円部の四方に4個の計6個の竪穴式石室があったと指摘されていますが詳細は不明です。

鏡塚古墳は一番高い場所に造られ、かつ大きいです。出土遺物がなく細かな時代は不明ですが、被葬者の権力の大きさが想像されます。

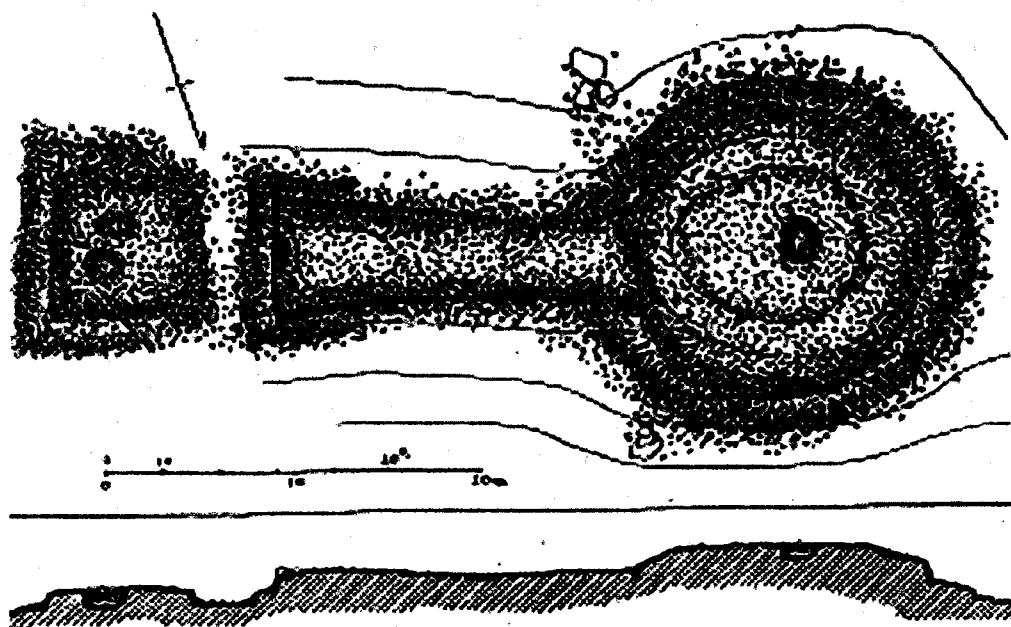


鏡塚古墳墳丘測量図

●北大塚古墳

全長 39.8mの前方後円墳。保存状態がよく、古墳の形がよくわかります。前方部の先端には姫塚古墳と共通する四角の壇が見られます。また、石垣状の積石が見られます。丸底の土器の破片が採集されていますが。細かな時代は不明です。

古墳に接して東の前方部側には方墳の北大塚東古墳、西の後円部側には前方後円墳の北大塚西古墳があります。



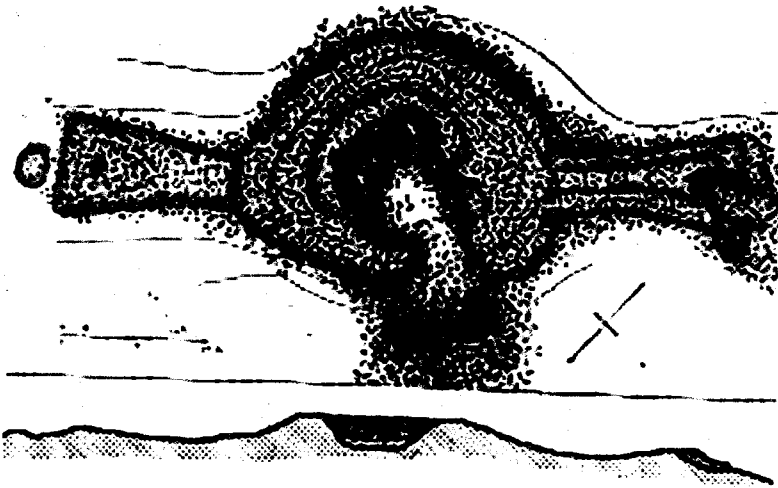
北大塚古墳墳丘測量図

●猫塚古墳

真ん中が円墳、両端が方墳という変わった形をした古墳です。こうした墳形を双方中円墳といいます。中円墳の頂上は現在、明治時代の大盗掘によって大きくぼみになっています。京都大学の調査では中央に大きな竪穴式石室があり、周囲に小さな竪穴式石室が8基あったとあります。出土遺物は盗掘にあったものが幸運にも東京国立博物館で買い上げられ、現在は東京国立博物館に収蔵されています。

す。特に筒形銅器の3点は国内2位、鏡5面は県内最多の量になります。また、銅剣17個も古墳からの出土としては全国で1位を誇ります。

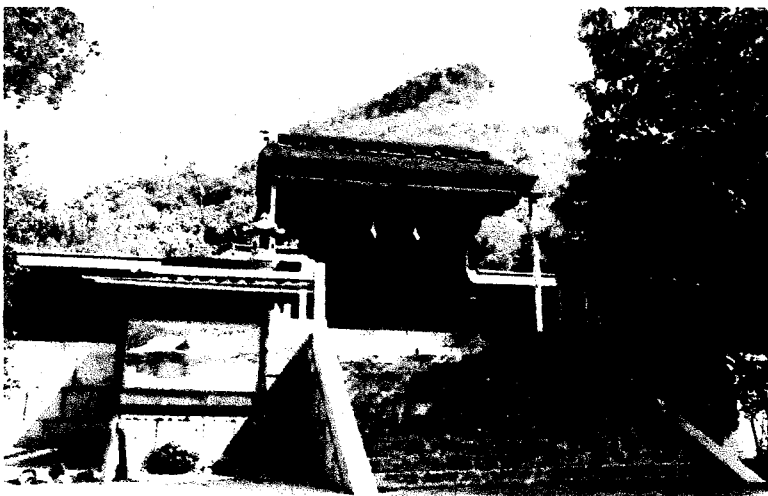
古墳の大きさは96mで県内では富田茶臼山、快天山古墳に次ぐ大きさです。時代は、古墳時代前期後半の古い時期と考えられています。



猫塚古墳墳丘測量図

●屋島神社

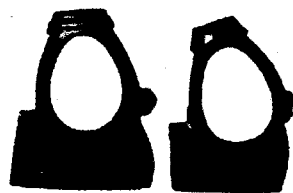
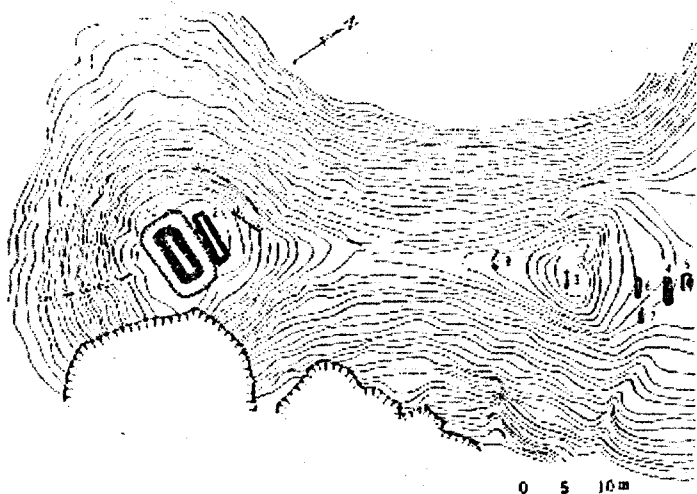
慶安四年（1651）初代高松藩主松平頼重が、香川郡宮脇村の本門寿院境内に東照大神（徳川家康公）の神廟を建立したのにはじまります。以来、山王社として



歴代藩主により祭られ、文化元年（1804）当時の高松藩主第8代松平頼儀が、屋島山麓に社殿の造営に着手し、文化12年（1815）に完成。

昭和48年の火災で本殿、拝殿等を全焼。社殿は翌年再建され現在に至ります。

●高松茶臼山古墳



上：鍬形石

左：墳丘測量図

平野に飛び出した尾根上に築造された古墳です。形は

前方後円墳で古墳時代前期に造られました。大きさは全長 75m です。

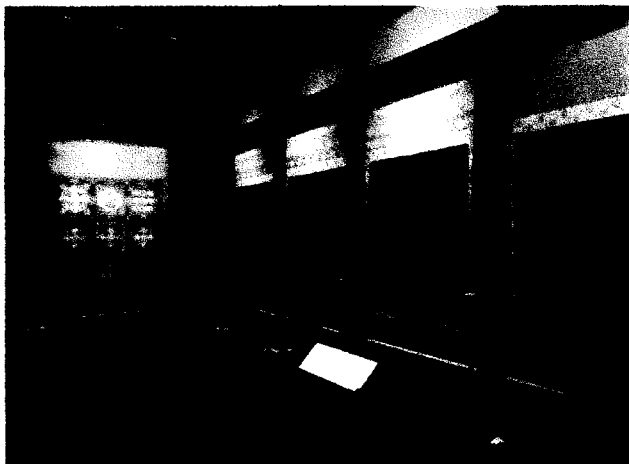
後円部の頂上に竪穴式石室が 2 基並んでありますが、方位は東西を向いています。これは讃岐の前期古墳の特徴といえ、在地の特徴をもった古墳ですが、竪穴式石室の全長が 5.4m、5.9m と長いこと、出土した遺物に鍬形石があり、畿内的な特徴も見られます。

高松平野西の在地的な「石清尾古墳群」に対する、畿内的な高松平野東の「高松茶臼山古墳」という対峙した評価もされています。

●香川県立ミュージアム

中国・唐から日本に密教を伝えて真言宗を開き、日本の歴史や文化に大きな影響を与えた弘法大師空海。宗教家としての活動の他に、満濃池の修築や庶民のための学校の設立などその功績は、多岐にわたっています。

また、平安時代初期を代表する書の名手三筆の一人にも数えられる存在です。空海の生涯と、ゆかりの資料を紹介します。



 備陽史探訪の会 事務局

〒720 - 0824 福山市多治米町5 - 19 - 8

TEL&FAX 084 - 953 - 6157

E-メール b-tan-kai@009191.com

公式ホームページ

<http://www3.plala.or.jp/big-eye/>